



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 サンフロンティア不動産株式会社  
コード番号 8934 URL <http://www.sunfrt.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀口 智顕

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 齋藤 清一

TEL 03-5521-1301

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	2,997	△67.2	491	—	402	—	230	—
22年3月期第3四半期	9,125	△54.4	△3,658	—	△3,944	—	△3,924	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	619.36	619.32
22年3月期第3四半期	△11,674.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%		円 銭	%
23年3月期第3四半期	13,026	—	5,419	—	41.5	14,542.78	—
22年3月期	13,359	—	5,184	—	38.7	13,923.14	—

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,402百万円 22年3月期 5,172百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,150	△71.3	580	—	410	—	350	—	942.13

(注)当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）、  
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)  
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 371,495株 22年3月期 371,495株  
② 期末自己株式数 23年3月期3Q 一株 22年3月期 一株  
③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 371,495株 22年3月期3Q 336,149株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実施の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)3ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体として緩やかな回復基調にはあるものの、デフレや厳しい雇用情勢に大きな変化はみられず、海外景気の下振れ懸念や円高の影響などにより景気が下押しされるリスクが存在しており、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当不動産業界においては、J-REITにおける物件取得の動きが徐々に散見されるとともに、日本銀行による資産買入等の基金の創設等を契機にREIT指数が大幅に上昇するなど、足もとでは市場の回復を織り込んだ動きもみられます。また、東京都心部におけるビル賃貸市場では、賃料の下落基調が当面続くことが予想されているものの、稼働率については底打ち感が広がりつつあり、回復の兆しがみられます。

このような環境下、当社グループにおきましては、長期的かつ安定的にビジネスを拡大するべく、顧客基盤と経営基盤の強化に努めるとともに、不動産サービス事業の拡充による既存事業の伸長と周辺分野での新たな収益機会の創出に努めてまいりました。また、不動産再生事業においては、数億円規模の小型物件を中心とした仕入活動及び販売活動に注力してまいりました。一方、経費につきましては、引き続き全社レベルでの損益分岐点の引き下げに取り組んでまいりました。業績は、事業用不動産における流動性回復の遅れ等もあり、期初の想定を下回る水準で推移してはいるものの、上記の取り組みにより、当第3四半期連結累計期間も黒字となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,997百万円（前年同四半期比67.2%減）、営業利益491百万円（前年同四半期は営業損失3,658百万円）、経常利益402百万円（前年同四半期は経常損失3,944百万円）、四半期純利益230百万円（前年同四半期は四半期純損失3,924百万円）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用したため、各セグメントの対前年同四半期との金額比較は記載しておりません。

#### (不動産再生事業)

リプランニング事業においては、市況の底打ち感を慎重に見極めつつ、物件の仕入活動及び販売活動に注力してまいりました。当社の得意とする都心5区エリアにおいて、短期プロジェクト型の物件を中心に慎重に検討を行い、9棟を購入いたしました。また、物件の商品化に様々な工夫を重ね、早期高稼働再生に取り組み、4棟を売却いたしました。しかしながら、不動産市場、特に当社が注力している事業用不動産における市場の流動性が期初に想定したほどには回復しなかったことなどから、仕入物件の規模・件数ともに期初の想定を下回る水準で推移いたしました。

賃貸ビル事業においては、期中を通して高い稼働率を維持したことにより、賃料収入は安定的に推移いたしました。

不動産証券化事業においては、前連結会計年度に匿名組合投資損失を原価計上した開発型SPCによる事業用ビル新築案件につき、物件の売却が完了いたしました。

以上の結果、売上高は1,719百万円となり、セグメント利益は658百万円となりました。

#### (仲介事業)

売買仲介事業においては、人員、組織体制等の強化を図りつつ、賃貸仲介やプロパティマネジメント事業等社内各部門との連携により、総合力を生かした顧客基盤の強化を引き続き進めてまいりました。

賃貸仲介事業においては、営業人員を増強するなど仲介営業力の強化に注力する一方、「そのまんまオフィス！」をはじめ、オフィス移転を総合的に支援する関連事業との連携によるフィー収入の増強にも努めてまいりました。

以上の結果、売上高は680百万円となり、セグメント利益は592百万円となりました。

#### (プロパティマネジメント事業)

プロパティマネジメント事業においては、受託物件におけるきめ細やかなテナント様対応による顧客満足度向上を図り、空室発生の未然防止に努めるとともに、物件の付加価値向上を目指したりニューアル提案等を積極的に行うなど、新たな収益機会の創出にも注力してまいりました。

以上の結果、売上高は296百万円となり、セグメント利益は219百万円となりました。

(その他)

建築企画事業においては、全体としては前年同期に比べ売上、利益とも減少したものの、レイアウト提案、内装造作、原状回復工事等、オフィス移転に付随する様々な課題を解決する「移転トータルプロデュース」の業績は順調に推移いたしました。

滞納賃料保証事業においては、景気の低迷によるビルオーナー様の賃料滞納リスクの回避やテナント様の敷金・保証金を預けるリスクの低減等のニーズを背景に受託件数は安定的に増加し、保証残高も堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は301百万円となり、セグメント利益は123百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は13,026百万円（前連結会計年度末比2.5%減）、負債は7,606百万円（同6.9%減）となりました。総資産の減少の主な要因は、たな卸資産の増加1,171百万円等があったものの、現金及び預金の減少1,563百万円等があったことによるものであります。負債の減少の主な要因は、有利子負債の増加114百万円等があったものの、匿名組合債務の減少710百万円等があったことによるものであります。

また、純資産は5,419百万円（同4.5%増）となりました。純資産の増加の主な要因は、四半期純利益230百万円の計上等によるものであります。この結果、自己資本比率は41.5%となりました。

### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、税金等調整前四半期純利益249百万円及び長期借入による収入700百万円等があったものの、たな卸資産の増加額1,174百万円、投資有価証券の取得による支出729百万円及び長期借入金の返済による支出317百万円等があった結果、期首残高に比べ1,591百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末残高は、2,010百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フロー及びそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1,053百万円（前年同四半期は6,804百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益249百万円等があったものの、匿名組合からの損益分配益156百万円及びたな卸資産の増加額1,174百万円等があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は652百万円（前年同四半期は763百万円の支出）となりました。これは主に、匿名組合出資金の払戻しによる収入172百万円等があったものの、投資有価証券の取得による支出729百万円等があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は114百万円（前年同四半期は6,327百万円の支出）となりました。これは主に、短期借入金の純減額214百万円及び長期借入金の返済による支出317百万円等があったものの、長期借入れによる収入700百万円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当該業績予想につきましては、平成22年5月13日付にて発表いたしました数値を修正しております。修正内容につきましては本日発表しております「平成23年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### 2. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産の減価償却費については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

#### 3. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 1. 会計処理の変更

##### (1) 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ1,295千円、税金等調整前四半期純利益は4,586千円減少しております。

##### (2) 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。なお、これによる影響はありません。

#### 2. 表示方法の変更

##### (四半期連結損益計算書)

(1) 前第3四半期連結累計期間において、特別利益の「その他」に含めて表示しておりました「貸倒引当金戻入額」は、特別利益の総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。

なお、前第3四半期連結累計期間の特別利益の「その他」に含まれる「貸倒引当金戻入額」は6,585千円であります。

(2) 前第3四半期連結累計期間において、区分掲記しておりました「固定資産除却損」（当第3四半期連結累計期間は2,662千円）は、特別損失の100分の20以下となったため、特別損失の「その他」に含めて表示することといたしました。

(3) 「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

- (1) 前第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に区分掲記しておりました「固定資産除却損」(当第3四半期連結累計期間は3,418千円)は、重要性が乏しくなったため、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示することといたしました。
- (2) 前第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示しておりました「法人税等の還付額」及び「法人税等の支払額」は、当第3四半期連結累計期間より「法人税等の支払額又は還付額(△は支払)」として純額表示しております。  
なお、当第3四半期連結累計期間における「法人税等の支払額」及び「法人税等の還付額」は、それぞれ△7,415千円、3,391千円であります。
- (3) 前第3四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」に区分掲記しておりました「短期貸付金の回収による収入」(当第3四半期連結累計期間は125千円)は、重要性が乏しくなったため、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示することといたしました。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,376,624	3,940,389
売掛金	141,924	134,534
販売用不動産	1,313,368	764,318
仕掛販売用不動産	622,331	—
その他	254,588	95,750
貸倒引当金	△6,797	△6,544
流動資産合計	4,702,040	4,928,448
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,740,832	4,862,042
車両運搬具（純額）	2,583	613
土地	3,192,919	3,192,919
その他（純額）	10,835	13,611
有形固定資産合計	7,947,170	8,069,186
無形固定資産		
その他	51,748	34,176
無形固定資産合計	51,748	34,176
投資その他の資産		
その他	331,440	395,173
貸倒引当金	△6,351	△67,883
投資その他の資産合計	325,088	327,289
固定資産合計	8,324,007	8,430,651
資産合計	13,026,047	13,359,100
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	98,998	79,329
短期借入金	717,000	931,000
1年内償還予定の社債	108,000	108,000
1年内返済予定の長期借入金	491,688	408,688
未払法人税等	25,953	14,517
賞与引当金	10,320	36,258
工事保証引当金	2,400	6,100
保証履行引当金	5,900	6,381
その他	616,293	619,517
流動負債合計	2,076,553	2,209,792
固定負債		
社債	108,000	162,000
長期借入金	4,789,764	4,490,280
繰延税金負債	507	439
その他	631,362	1,311,778
固定負債合計	5,529,634	5,964,498
負債合計	7,606,188	8,174,290

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,728,308	7,728,308
資本剰余金	500,000	500,000
利益剰余金	△2,826,478	△3,056,570
株主資本合計	5,401,830	5,171,738
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	740	640
評価・換算差額等合計	740	640
新株予約権	17,288	12,431
純資産合計	5,419,859	5,184,810
負債純資産合計	13,026,047	13,359,100

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	9,125,961	2,997,561
売上原価	11,409,775	1,294,544
売上総利益又は売上総損失(△)	△2,283,813	1,703,016
販売費及び一般管理費	1,374,750	1,211,178
営業利益又は営業損失(△)	△3,658,564	491,837
営業外収益		
受取利息	1,371	1,145
受取配当金	371	343
受取遅延損害金	—	1,587
その他	829	1,751
営業外収益合計	2,572	4,827
営業外費用		
支払利息	280,506	93,323
その他	7,949	693
営業外費用合計	288,455	94,017
経常利益又は経常損失(△)	△3,944,447	402,648
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	3,634
賞与引当金戻入額	17,709	—
工事保証引当金戻入額	22,815	3,220
その他	6,985	1,221
特別利益合計	47,509	8,075
特別損失		
固定資産除却損	10,761	—
事務所移転費用引当金繰入額	5,119	—
訴訟和解金	—	155,000
その他	1,859	6,053
特別損失合計	17,740	161,053
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,914,678	249,670
法人税、住民税及び事業税	9,802	19,578
法人税等合計	9,802	19,578
少数株主損益調整前四半期純利益	—	230,092
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,924,480	230,092

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,914,678	249,670
減価償却費	194,441	167,535
新株予約権の増減額(△は減少)	16,719	4,857
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8,091	△2,493
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30,459	△25,938
工事保証引当金の増減額(△は減少)	△23,700	△3,700
保証履行引当金の増減額(△は減少)	△1,700	△481
事務所移転費用引当金の増減額(△は減少)	5,119	△2,765
匿名組合投資損益(△は益)	2,999,972	△156,309
受取利息及び受取配当金	△1,742	△1,489
支払利息	280,506	93,323
固定資産除却損	8,461	—
訴訟和解金	—	155,000
売上債権の増減額(△は増加)	△41,984	3,111
たな卸資産の増減額(△は増加)	7,619,858	△1,174,873
仕入債務の増減額(△は減少)	△98,200	△4,654
未払消費税等の増減額(△は減少)	△4,178	△62,465
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	△88,050
預り保証金の増減額(△は減少)	△223,440	30,276
その他	227,515	16,728
小計	7,004,419	△802,718
利息及び配当金の受取額	1,798	1,489
利息の支払額	△307,425	△92,806
訴訟和解金の支払額	—	△155,000
法人税等の還付額	108,287	—
法人税等の支払額	△2,614	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	—	△4,024
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,804,465	△1,053,061
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△190,475	△75,352
定期預金の払戻による収入	154,000	48,000
有形固定資産の取得による支出	△130	△24,205
有形固定資産の売却による収入	—	4,644
無形固定資産の取得による支出	△1,623	△37,998
投資有価証券の取得による支出	△752,821	△729,729
匿名組合出資金の払戻による収入	—	172,972
短期貸付金の回収による収入	6,633	—
差入保証金の差入による支出	—	△17,163
差入保証金の回収による収入	20,995	7,037
その他	—	△484
投資活動によるキャッシュ・フロー	△763,422	△652,278

(単位：千円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	931,000	△214,000
長期借入れによる収入	—	700,000
長期借入金の返済による支出	△8,198,516	△317,516
社債の償還による支出	△54,000	△54,000
株式の発行による収入	994,369	—
配当金の支払額	△711	△261
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,327,858	114,222
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△286,814	△1,591,117
現金及び現金同等物の期首残高	3,712,211	3,601,870
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,425,396	2,010,752

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	不動産 再生事業 (千円)	不動産 サービス事業 (千円)	その他 不動産事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	7,820,081	1,270,868	35,011	9,125,961	—	9,125,961
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	16,145	489	—	16,635	(16,635)	—
計	7,836,227	1,271,357	35,011	9,142,596	(16,635)	9,125,961
営業利益(又は営業損失)	(546,001)	154,604	(2,982,761)	(3,374,158)	(284,405)	(3,658,564)

(注) 1. 事業の区分は社内管理上使用している区分によっております。

2. 各区分の主な商品等

- (1) 不動産再生事業 …… リプランニング、自社保有ビルの賃貸
- (2) 不動産サービス事業 …… 売買仲介、賃貸仲介、プロパティマネジメント、建築企画、滞納賃料保証
- (3) その他不動産事業 …… アセットマネジメント、私募ファンドの企画、組成、運営

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社で製品・サービスの種類別に包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、本社で定めた製品・サービス別のセグメントから構成されており、「不動産再生事業」、「仲介事業」及び「プロパティマネジメント事業」の3つを報告セグメントとしております。

「不動産再生事業」は、リブランニング事業、賃貸ビル事業及び不動産証券化事業等を行っております。

「仲介事業」は、売買仲介事業及び賃貸仲介事業を行っております。「プロパティマネジメント事業」は、プロパティマネジメント事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1.	合計	調整額 (注) 2.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3.
	不動産再生	仲介	プロパティ マネジメント	計				
売上高	1,719,813	680,387	296,210	2,696,410	301,150	2,997,561	—	2,997,561
セグメント利益	658,226	592,463	219,074	1,469,764	123,506	1,593,271	△1,101,433	491,837

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築企画事業及び滞納賃料保証事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,101,433千円には、各報告セグメントに配分しない全社費用△1,194,756千円及び支払利息の調整額93,323千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。